

2023年度

紋別市における景気動向調査

<第2四半期>

報 告 書

紋別商工会議所

目 次

I. 調 査 要 領

- 1. 調査時点及び調査対象期間 1
- 2. 調査対象 1
- 3. 回収状況 1

II. 概 況

- 1. 全体の動き 2
 - (1) 今期の業況 2
 - (2) 部会別の動向 3
- 2. 今期の動向
 - (1) 今期の売上高・生産高 6
 - (2) 今期の採算 7
 - (3) 今期の資金繰り 8
 - (4) 今期の在庫水準 9
 - (5) 今期の借入金の金利水準 10
 - (6) 設備投資の実施状況 10
- 3. 来期の見通し
 - (1) 来期の業況見通し 11
 - (2) 来期の売上高・生産高見通し 11
 - (3) 来期の資金繰り見通し 12

III. 各 指 標

- 1. 各指標 12

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 2023（令和5）年10月1日
(2)調査対象期間 2023年7月～9月期の実績および2023年10月～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス・諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業＋食品業部会	30社	16社	53.3%
水産業部会	30社	16社	53.3%
機械工業部会	30社	15社	50.0%
建設業部会	30社	20社	66.7%
観光・サービス業＋諸業部会	30社	17社	56.7%
合計	150社	84件	56.0%

注）本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－今期の業況は前年同期よりも僅かに回復。次期は更に回復の見通し－

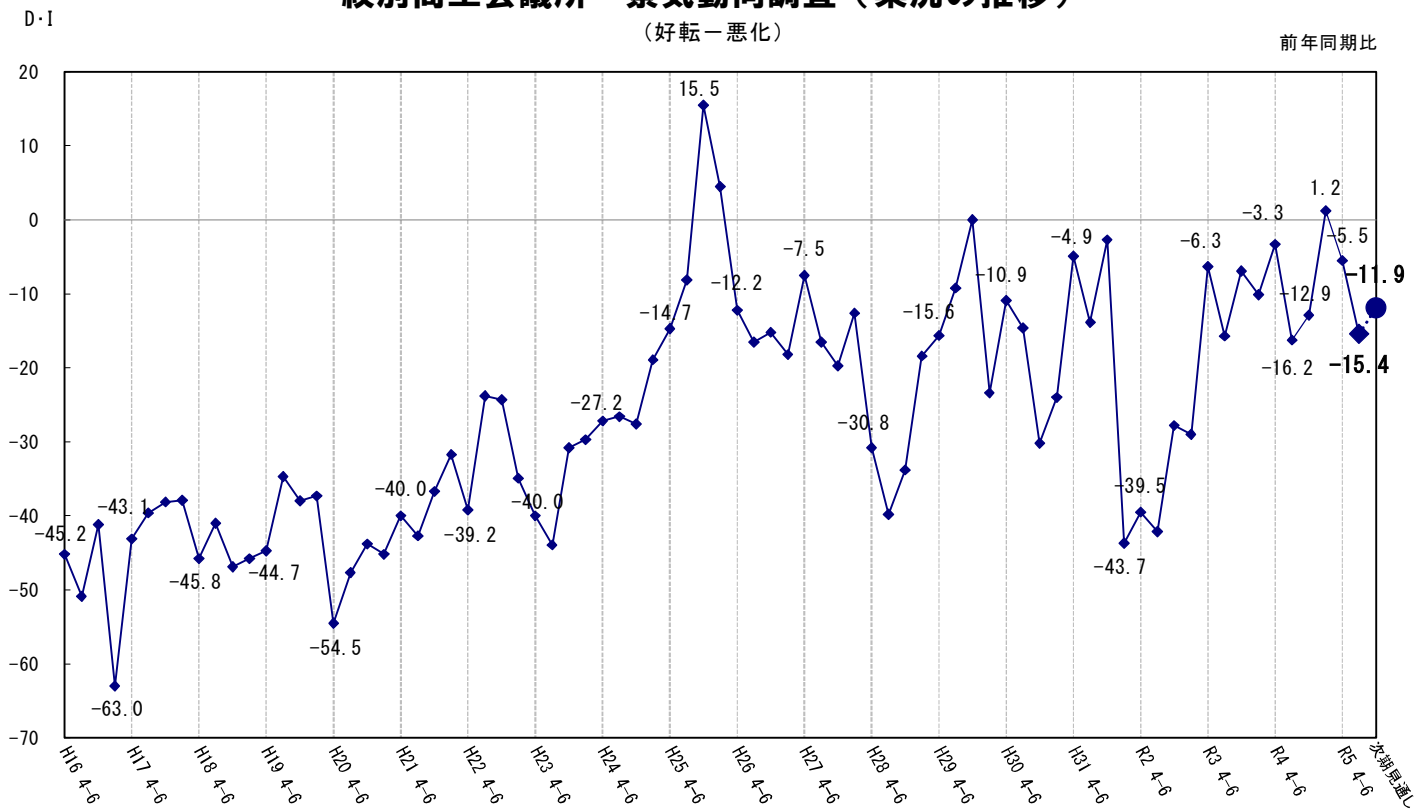
1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2023(令和5)年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比▲15.4**と**前年同期▲16.2**から**0.8ポイント僅かに回復**となりました。

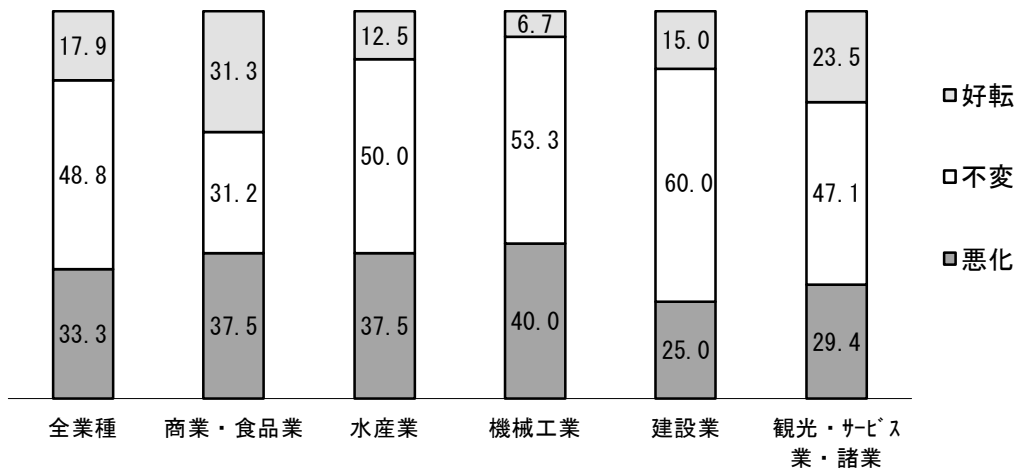
業況判断DIを前年同期と比べてみると、商業食品業[前年DI値▲35.3→今期▲6.2]、水産業[前年DI値▲16.7→今期▲25.0]、機械工業[前年DI値▲20.0→今期▲33.3]、建設業[前年DI値0.0→今期▲10.0]、観光サービス業・諸業[前年DI値▲12.0→今期▲5.9]と商業食品業が29.1ポイント、観光サービス業・諸業で6.1ポイント回復の値を示しましたが、その他の業種では前年と比較して悪化を示す値となりました。経営上の問題点は、「原材料・材料単価の上昇」「仕入れ単価の上昇」「従業員の確保難」多くなっています。

来期(2023(令和5)年10月～12月)については、**業況判断DIは▲11.9**と僅かに悪化する見通しとなっています。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況（前年同期比）



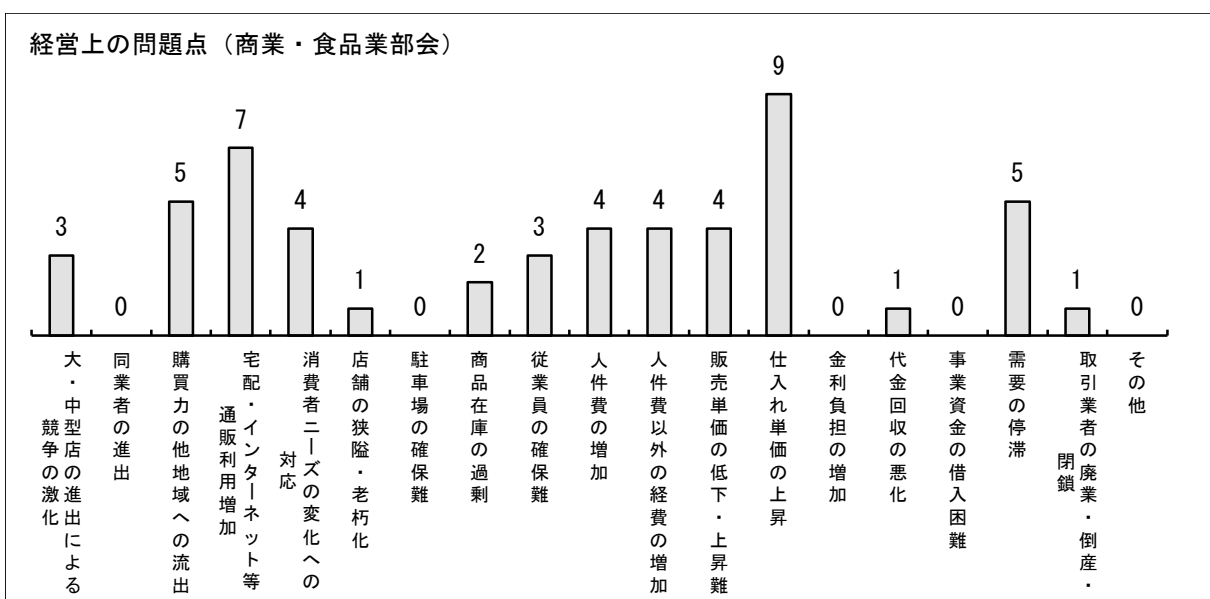
■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲6.2（前年 DI 値▲35.3、来期見通し▲12.5）〕

業況 DI 値（前年同期比）は、前年同期より 29.1 ポイント大幅な回復となりました。新型コロナウイルスが 5 類感染症に引き下げられたことにより、外出機会の増加や観光・ビジネス客、消費活動も徐々に回復し、悪化が抑制されています。しかしながら、相次ぐ値上げで需要が停滞しているという声も多く寄せられています。来期は、DI 値▲12.5 と今期よりも悪化が見込まれています。経営上の問題点としては「仕入単価の上昇」を訴える声が突出し、次いで「宅配・インターネット等通販利用増加」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・人口減や需要（ガス・灯油減、電気増加）の停滞（燃料小売業）
- ・価格変動が激しいため、資金繰りが大変である。（金属回収）
- ・内需の創出と市外需要の両方が大切、クーポンなど大歓迎（食料品販売業）
- ・客数減少（医薬品・化粧品小売業）



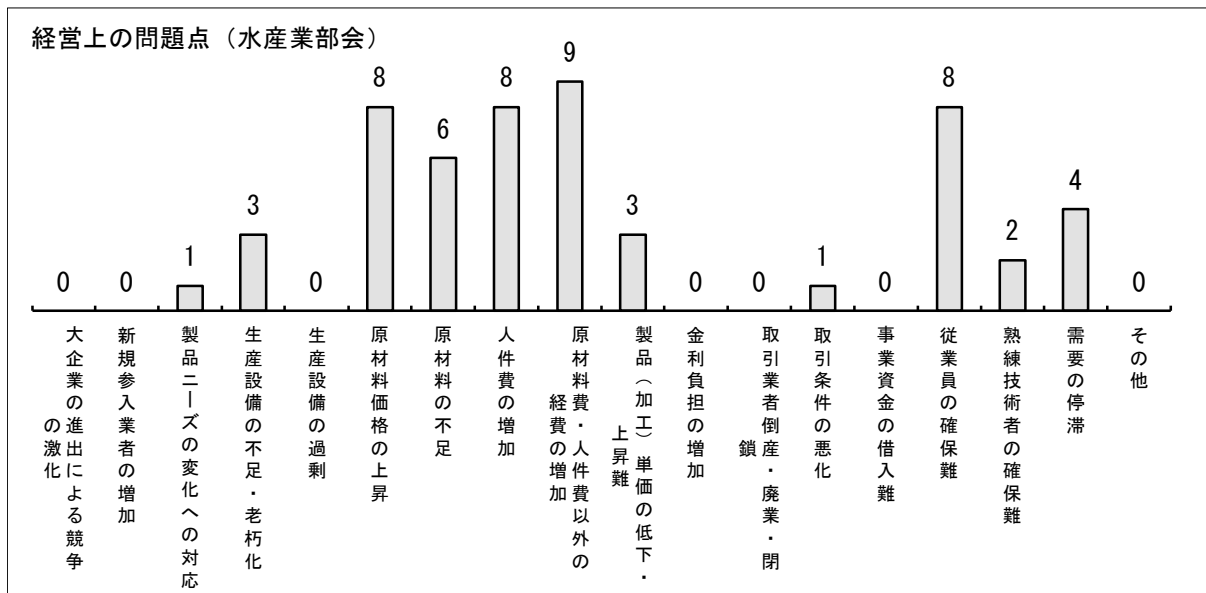
【水産業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲25.0（前年 DI 値▲16.7、来期見通し▲25.0）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）は、8.3 ポイントの悪化となりました。紋別市のふるさと納税は

納税は依然として人気が高く推移していますが、原材料価格の上昇や人件費、資材等の経費の増加により業況が悪化しています。また、8月のALPS処理水放出により、中国向けに魚介類の輸出が禁止となり、紋別市でも主力のホタテを輸出することが困難となるなど、課題が山積しています。来期については、▲25.0と今期と同ポイントの見通しとなっています。経営上の問題点としては、「原材料費・人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

・ALPS 処理水関連（水産加工業）



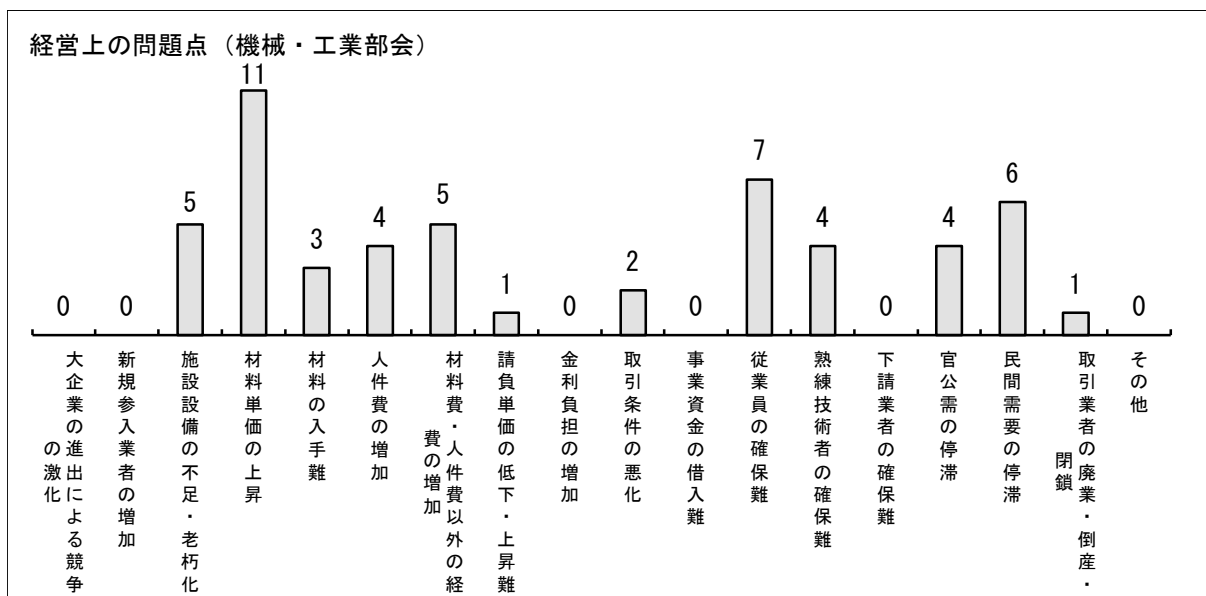
【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲33.3（前年DI値▲20.0、来期見通し▲46.7）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、13.3ポイントの悪化となりました。エネルギー価格の高騰や材料の値上がり業況悪化の大きな要因と考えられます。また、ALPS処理水放出の影響により、中国向けに水産物の輸出が出来なくなったことから資材の受注が激減するなど、水産業以外にも影響が波及しています。来期はDI値▲46.7と更に悪化する見通しとなっています。経営上の問題点として、「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

・ALPS 処理水影響（梱包資材製造販売）

・前年同期は順調でしたが、今期は悪化しており、特に官民の需要が停滞しています。また仕入関係などの高騰がネックとなり、製品価格に転嫁できない現状になっています。（室内装飾製造業）

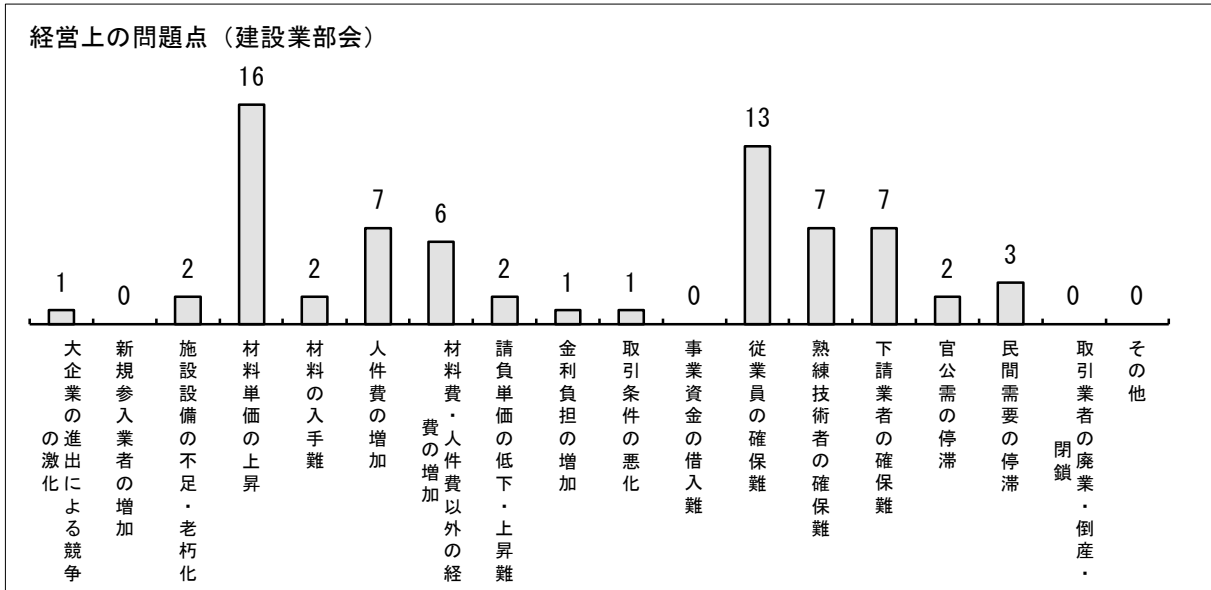


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲10.0（前年DI値0.0、来期見通し20.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、10.0のポイント悪化となりました。市内ではまちな団地公住や看護学校、消防新庁舎といった大型工事が進む他、紋別市商業環境整備促進補助金を活用した店舗等の大小様々な工事も順調に推移しています。しかしながら、物価高により材料単価の上昇や経費の増加、働き手不足により作業が難航しているとの声も寄せられています。来期は20.0と再び好転する見通しとなっています。経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・冬期間の公共工事の量（土木工事業）
- ・下請け業者の確保難（配管工事業）
- ・インボイス制度の不安（塗装業）
- ・働き手不足（土木工事業）

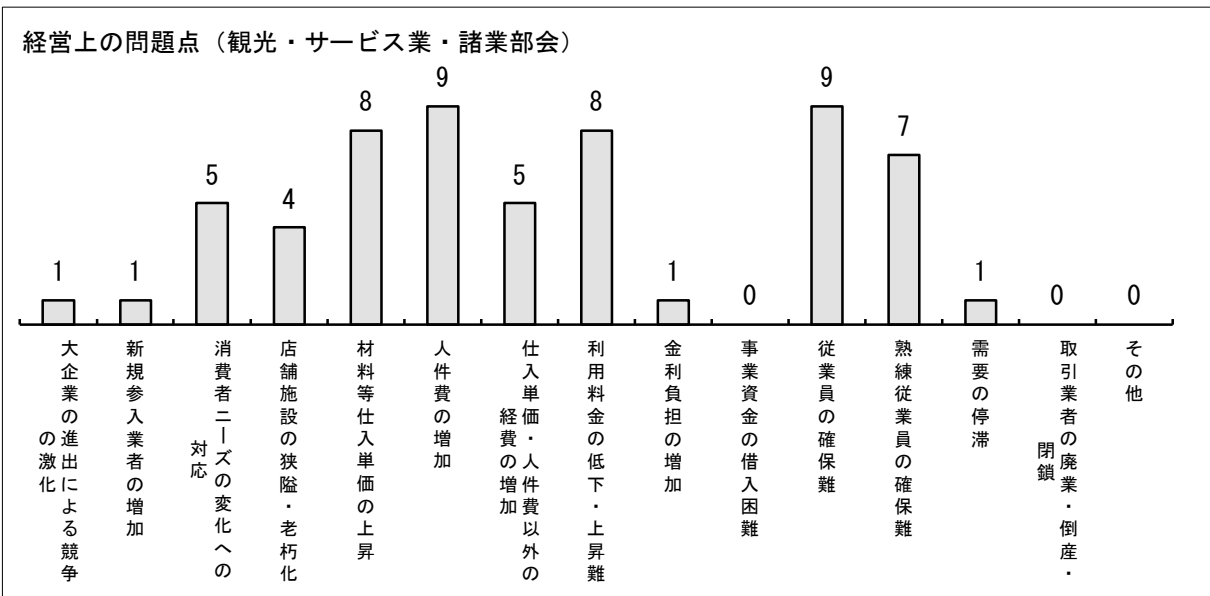


【観光サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲5.9（前年DI値▲12.0 来期見通し▲5.9）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、6.1ポイントの回復となりました。新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられたことにより、多くの国内外の観光客やビジネス客の動きがみられ、悪化幅はやや解消されてきています。飲食店では食事を提供する店舗の客足は回復傾向にあるものの、アルコールをメインとして提供する店舗の人出には戻っていないとの声も寄せられています。旅客運送に係る自動車の2種免許や介護など、資格を必要とする業種については、高齢の従業員が退職した後の人材確保・若手育成が課題となっています。次期は、▲5.9と今期と同ポイントとなる見通しとなっています。経営上の問題点としては、「人件費の増加」「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・【外部的】荷主による運賃の上げ渋りは従前依存しているでしょう。【内部的】低賃金でも休まず長期間働いて稼いできた歴史があり、働き方改革で休み出すと収入が減り、更に人手不足となる。（貨物運送業）
- ・燃料代高騰、諸経費価格高騰、人材確保難（旅客運送業）
- ・人手不足が一番の問題です。旅客事業については、二種免許取得という壁があり、ハードルが高くなってしまいます。人材を確保するためには、根本の制度が変わらなければ、なかなか厳しいと思う。（旅客運送業）

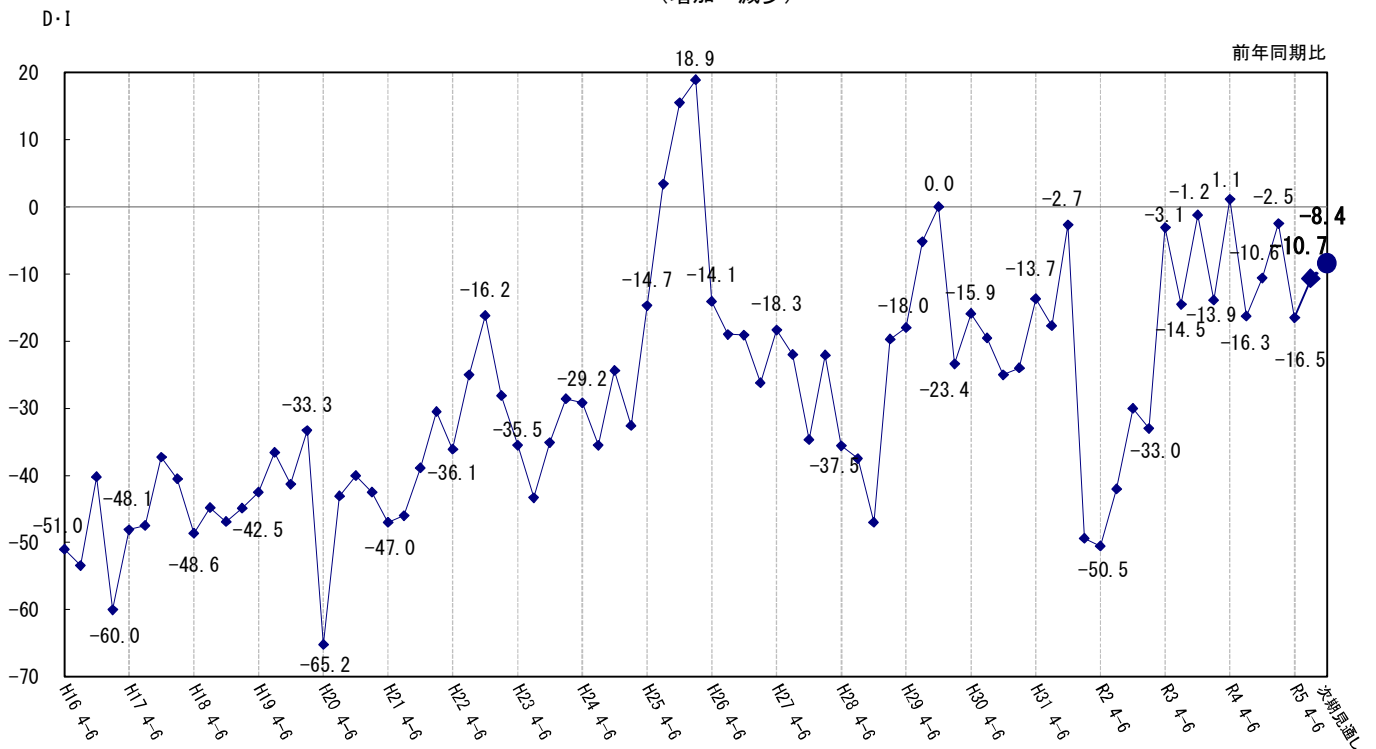


2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

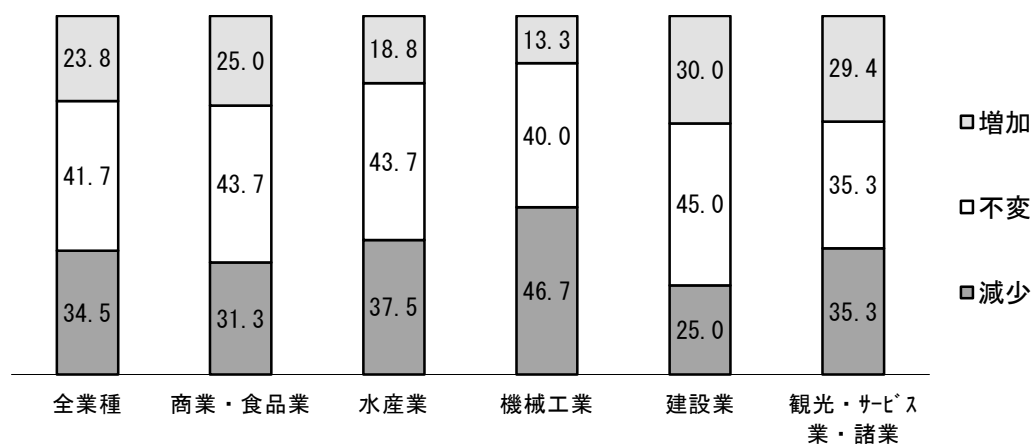
売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



【前年同期比】（2022（令和4）年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高）

今期の売上高・生産高（前年同期比）



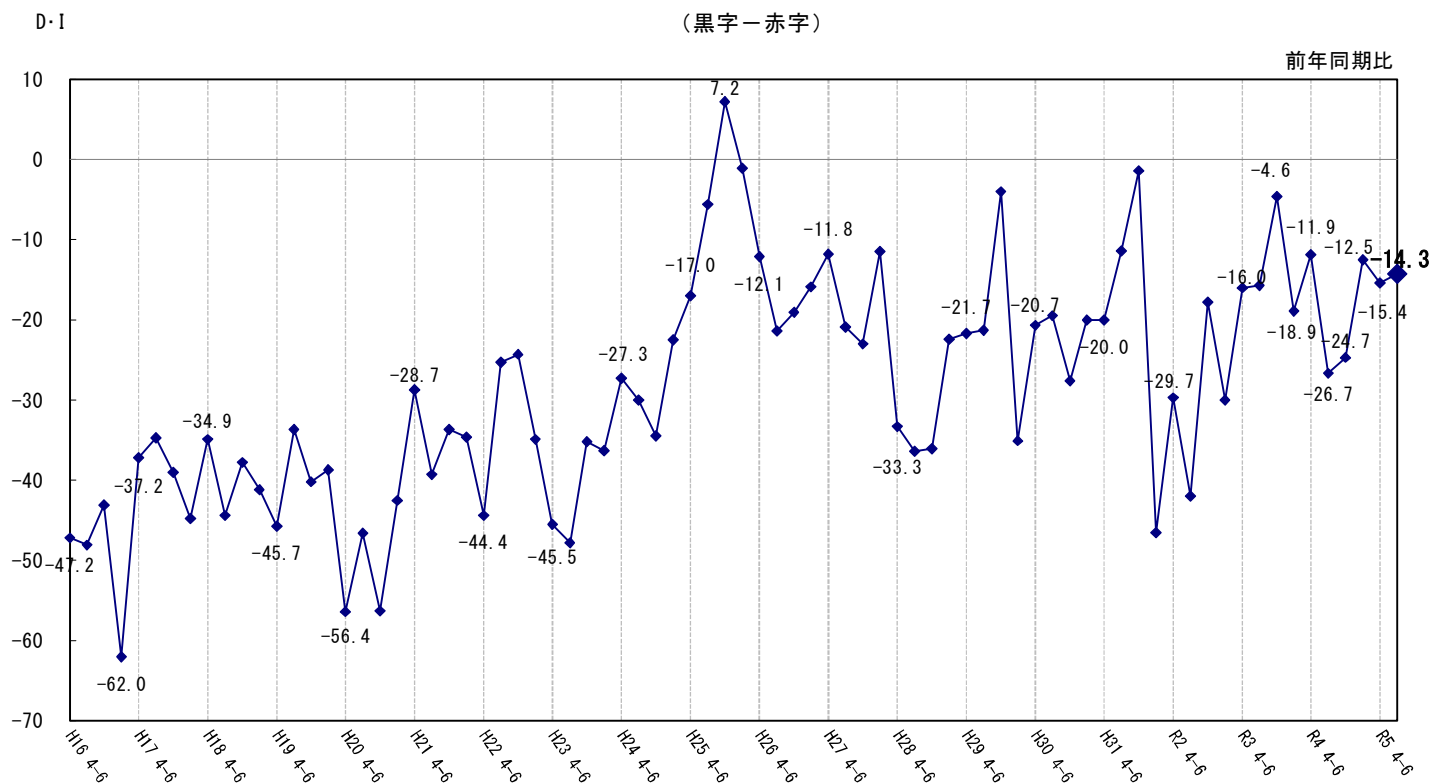
全業種平均でDI値▲10.7〔前年調査時（2022年7～9月期▲16.3）より5.6ポイント悪化〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲41.2→▲6.3〕、水産業〔前年▲25.0→▲18.7〕
 機械工業〔前年▲26.6→▲33.4〕、建設業〔前年17.7→5.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲12.0→▲5.9〕

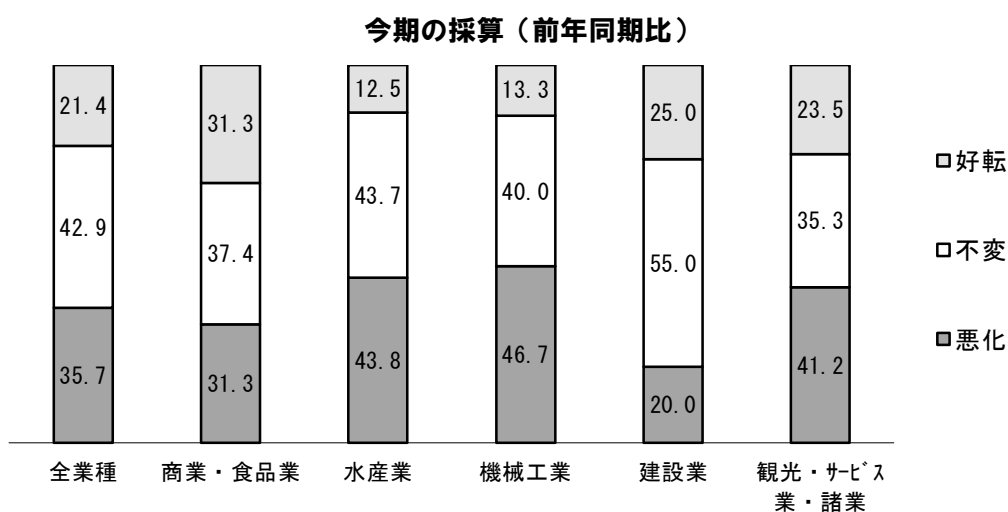
(2) 今期の採算

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字＝赤字）



【前年同期比】（2022（令和4）年7月～9月期の水準と比較した今期の採算水準）



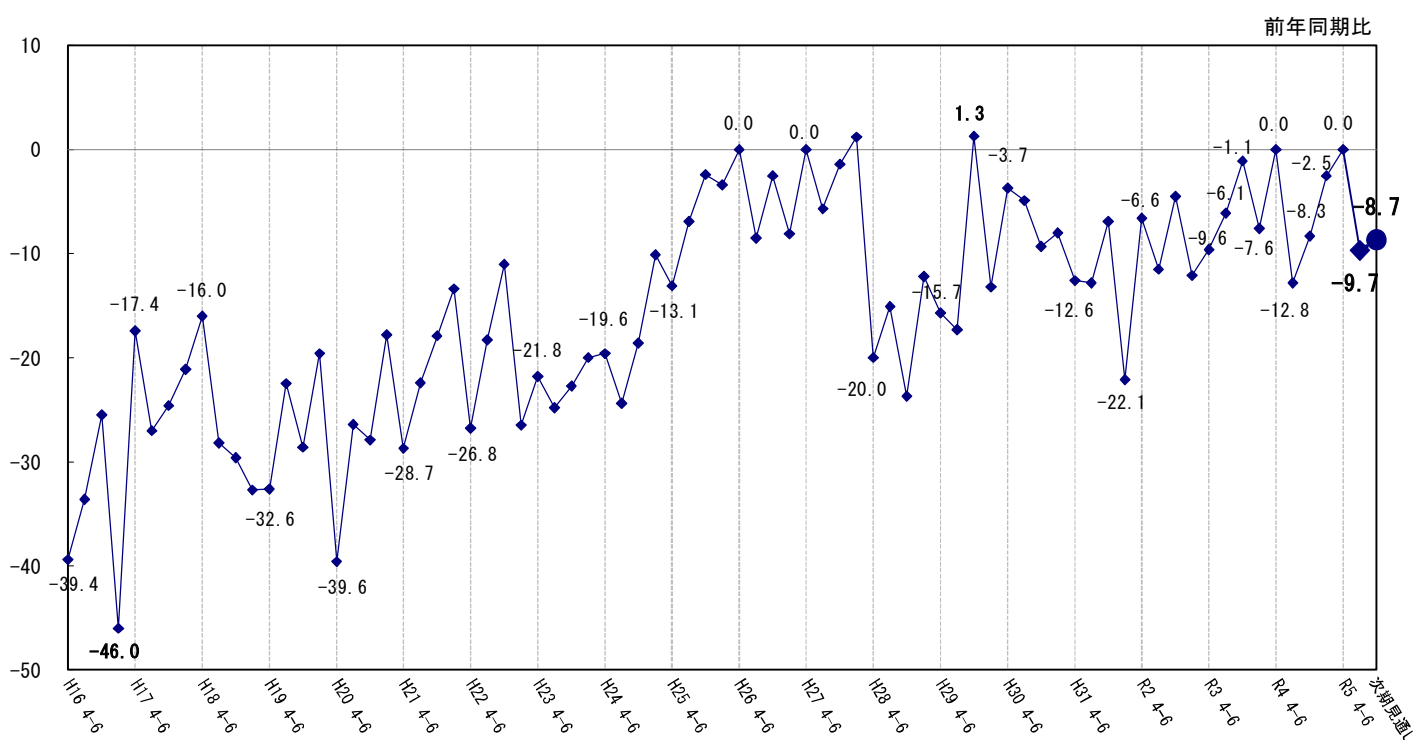
全業種平均でDI値▲14.3〔前年調査時（2022年7～9月期▲26.7）より12.4ポイント回復〕

〔部会別DI値〕
 商業・食品業〔前年▲41.2→0.0〕、水産業〔前年▲25.0→▲31.3〕
 機械工業〔前年▲26.6→▲33.4〕、建設業〔前年17.7→5.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲12.0→▲17.7〕

(3) 今期の資金繰り

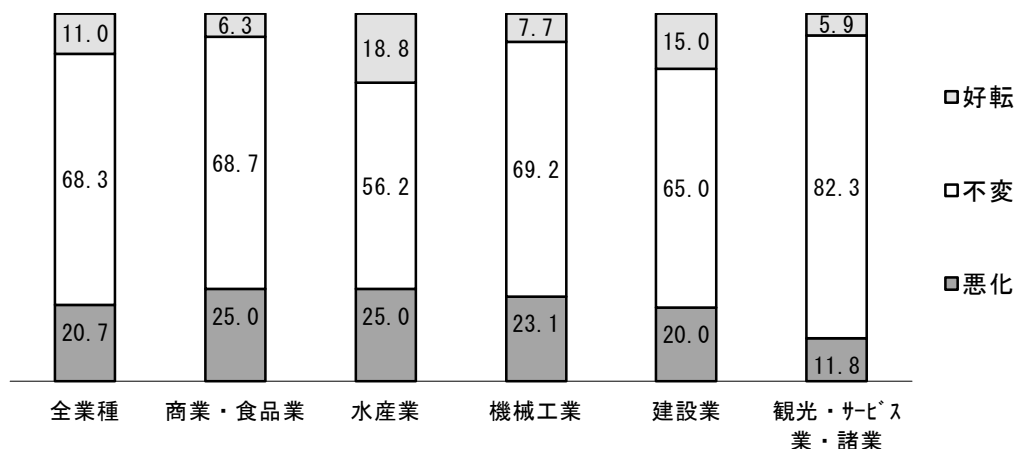
資金繰り推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）



【前年同期比】（2022（令和4）年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り（前年同期比）



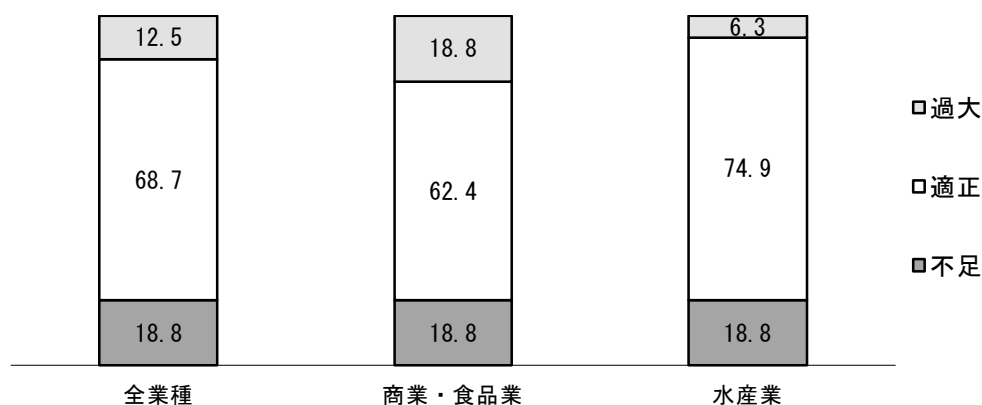
全業種平均でDI値▲9.7〔前年調査時（2022年7～9月期▲12.8）より3.1ポイント改善〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲23.5→▲18.7〕、水産業〔前年▲8.4→▲6.2〕
 機械工業〔前年▲13.3→▲15.4〕、建設業〔前年▲5.9→▲5.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲12.0→▲5.9〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（2022（令和4）年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

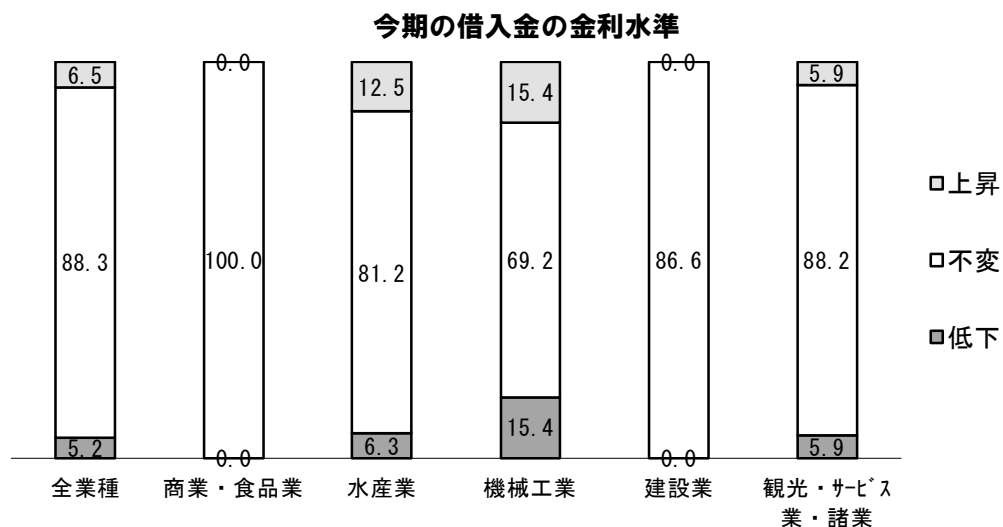


全業種平均でDI値▲6.3〔前年調査時（令和4年7～9月期▲6.9）より0.6ポイント適正化〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年0.0→0.0〕、水産業〔前年▲16.7→▲12.5〕

(5) 今期の借入金の金利水準

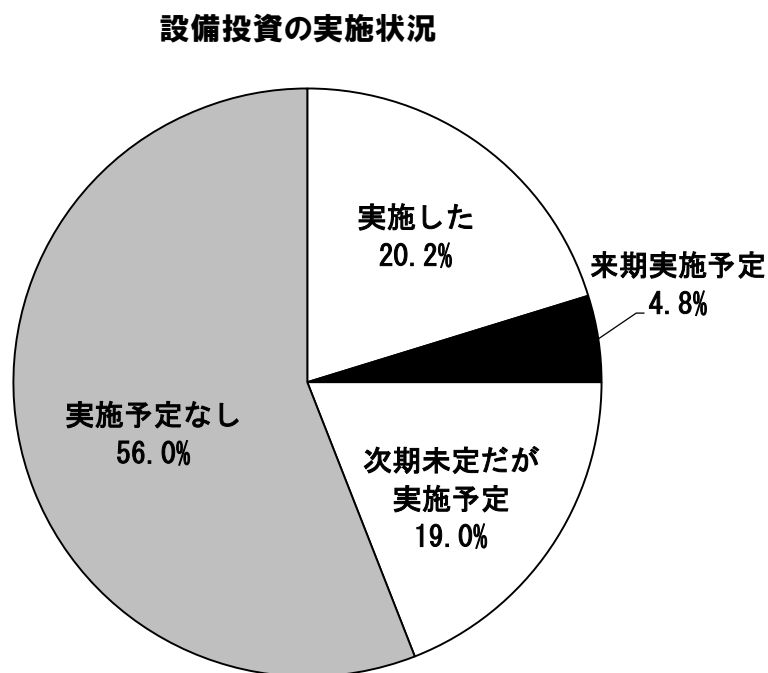
【前年同期比】(2022(令和4)年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準)



全業種平均で▲1.3。商業食品業 0.0、水産業 6.2、機械工業 0.0、建設業 0.0、観光サービス諸業 0.0。

(6) 設備投資の実施状況

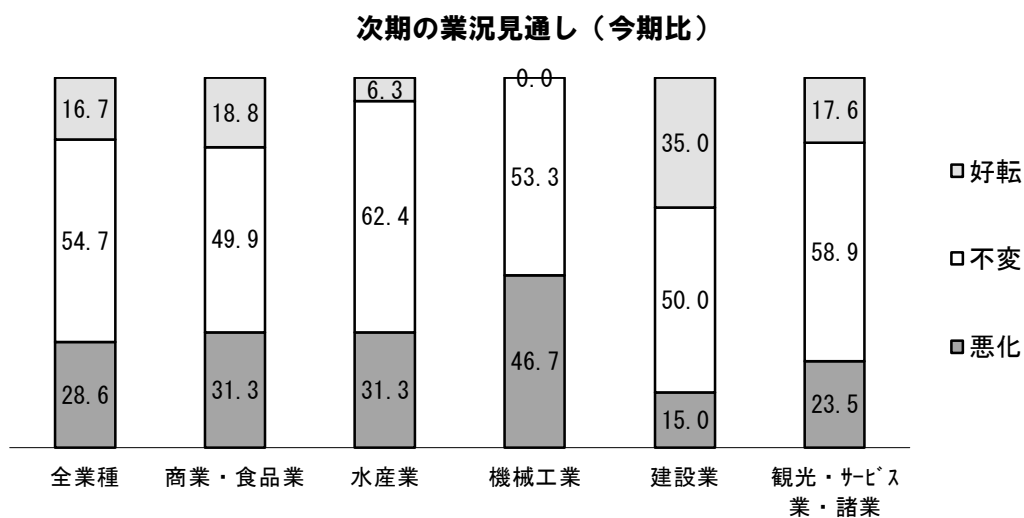
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況見通し

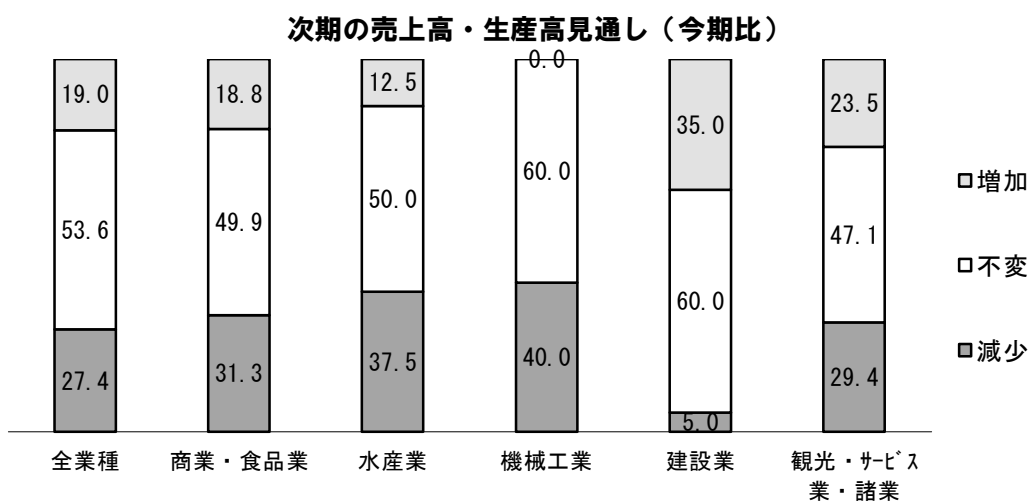
【今期比】（2023（令和5）年7月～9月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値▲11.9 [今期の業況▲15.4と比較し、3.5ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高見通し

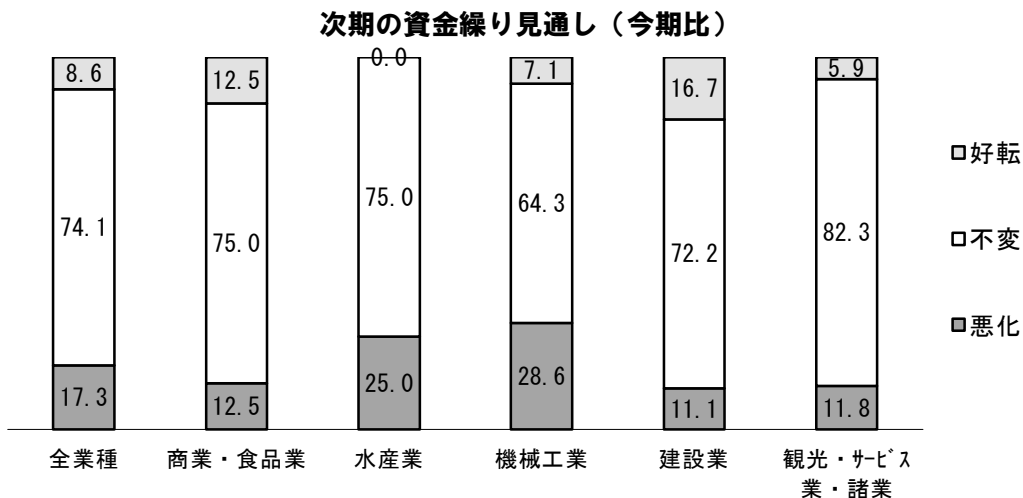
【今期比】（2023（令和5）年7月～9月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均 DI 値▲8.4 [今期の売上高・生産高▲10.7と比較し、2.3ポイント回復の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】(2023(令和5)年7月～9月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し)



全業種平均DI値 ▲8.7 [今期の資金繰り▲9.7より1ポイント回復の見通し]

Ⅲ. 各指標

		全体	商業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービス ・諸業
業況判断 D・I	今期実績	▲15.4	▲6.2	▲25.0	▲33.3	▲10.0	▲5.9
	来期見通し	▲11.9	▲12.5	▲25.0	▲46.7	20.0	▲5.9
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲10.7	▲6.3	▲18.7	▲33.4	5.0	▲5.9
	来期見通し	▲8.7	▲12.5	▲25.0	▲40.0	30.0	▲5.9
在庫 D・I	今期実績	▲6.3	0.0	▲12.5	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲14.3	0.0	▲31.3	▲33.4	5.0	▲17.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲9.7	▲18.7	▲6.2	▲15.4	▲5.0	▲5.9
	来期見通し	▲8.7	0.0	▲25.0	▲21.5	5.6	▲5.9
借入金 金利水準 D・I	今期実績	1.3	0.0	6.2	0.0	0.0	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。